

科目名	農業・農村の暮らし	担当教員	青山浩子	
対象年次	配当学期	単位数	対象	必選区分
1	後期	2	全員	必修
授業の概要	<p>本科目では、地域の中で独自に形成されてきた風土や伝統に根ざし、時に保守的である農業や農村社会の特質について具体的な事例を通して学ぶ。そのうえで、グローバル化、情報化、少子高齢化が進展し大きく変化する現代社会の中で農業・農村社会が直面している諸問題を考察・発見し、現在の農業・農村の果たす多面的な機能や新しい農業と農村のあり方について考える。</p>			
到達目標	<p>農業や農村に関連した伝統芸能・文学・芸能、および農業や農村社会特有の行動規範や生活態度などを理解し、農業・農村の機能や価値について認識する。現在の農村の動きや都市との結びつき、行動規範や生活態度の変化について理解を深める。農業・農村が持つ多面的な機能や魅力の発見、これらを活用する方法、および他の地域との連携方法などについて考え、文化に根ざした形で農業や農村の社会問題を解決し、農村を発展させる方法を考察する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス(授業のねらいと進め方、評価方法説明)、序説(農業、農村の暮らしを学ぶ意義) 2 農山漁村の暮らしと規律 3 農山漁村における家、家制度、家族類型 4 農山漁村の仕事 5 農山漁村における自治、助け合い 6 農山漁村における文化芸能、冠婚葬祭 7 戦後から現在までの農山漁村社会がたどってきた過程 8 農村と都市の違い、農村が果たしてきた役割、機能 9 日本の農業・農村の現状と課題 10 農村における女性の位置づけ、役割の変化 11 過疎化の進展と限界集落の問題 12 市町村合併がもたらした功罪 13 都市から農村への移住の動き 14 海外における農村活性化の現状－韓国的事例から－ 15 まとめ(全体を通してのポイントの再確認、試験についての説明) 			
評価方法	レポートおよび定期試験の結果を総合的に評価する。			
教科書	担当教員作成による資料を配付する。			
参考書等	「現代の食料・農業・農村を考える」 藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克 編著 (ミネルヴァ書房)			
事前事後学習	日頃から新聞やテレビなどで農業・農村に関する情報を集め、関心を持つようにする。			
備考	農村生活や文化に関わる報道番組(DVD等)を授業内で活用し、学生の理解が深まるような工夫をおこなう。			